

市指定史跡

昭和40(1965)年3月17日指定

管理者 木っば地蔵保存会

観信の墓 附 木造地蔵菩薩坐像

米穀を断ち、木の実などを食べて修行をする僧を木食僧と呼びます。江戸時代、その一人である観信はこの地に高幡庵を開き、享保11年(1726)に亡くなりました。観信の墓には「開山 権大僧都理性院阿闍梨 木食観信 享保十一丙午歳七月」と刻まれています。一方位牌には「権大僧都阿闍梨理性院木食観信不生位 享保十一丙午天八月六日」とあり、没年の月日に違いがみられます。

その観信の作と言われ、通称「木っば地蔵」と呼ばれる地蔵菩薩が観信の墓の傍らの祠に安置されています。かつて上飯山満高野にあった「揺ぎの松」という巨木が枯死し、その木っば端に観信が彫ったものといわれています。飯山満町にある「ゆるぎ地蔵」も、同松を用いた観信の作と伝えられています。



祠内の木造地蔵菩薩坐像

丹羽正伯供養碑

丹羽正伯は伊勢国松坂(三重県松阪市)生まれの医師・本草学者です。正伯は江戸幕府の医員となつた享保7年(1722)、和薬を作るための薬草園用地として、ここ滝台野30万坪のうち、15万坪を幕府より預けられました。残り15万坪は江戸薬種問屋の桐山太右衛門に預けられ、共に薬園開発を命じられました。正伯は宝暦6年(1756)に江戸で亡くなりましたが、万延元年(1860)、正伯を敬慕する薬園台新田の人々によりこの地に供養碑が建てられました。正面には法名「諦通院日慮」とあります。



丹羽正伯供養碑 観信の墓 祠

船橋市教育委員会